



關東北六縣聯合水產大會順序決定

來る九月二日から三日間 試驗場講習所落成式と共に

(既報) 來月二日から三日間小名濱水産試驗場で開催される第七回關東北六縣水産大會は水産界千餘の關係者が一堂に會する地方空前の大會であり地元小名濱町では昨二十六日町會を招集して協賛會組織その他歓迎方法を協議したが當大會には山崎農林大臣(水産局長代理)帝國水産會長以下臨席する筈である大會順序は大体次の如く決定した

△第一日(九月二日) 小學校開堂午前十時△開會の辭進水産會長△農林大臣告辭△福名濱工場、大敷視察會

△第二日(三日午前十時) 小名濱水産試驗場同講習場落成式△正午宴會(海岸バラック) △特別宴會協賛會主催△水産大會委員會議事△第三日(四日午前十時) 議事正午閉會△日本食料工業小名濱工場、大敷視察會

地元協賛會を組織 昨日町會で正式決定

會長小野町長以下役員

(別項) 小名濱町では昨報の如く二十六日町會を開き關東北水産大會協賛會を豫算千八百圓で組織する事になり協賛の結果役員を次の如く決定した

△協賛會長町長小野晋平
△副會長高木保(助役)水野政次郎(漁業組合長)△會場係 黒澤島雄外九名△宴會係 立花雄七外町議全部△宿舍係 村上眞太郎外六名 △受付係 千藤縣(坂本欽一郎)村 上保一郎△茨城縣(村上眞太郎、松本隆文)△福島縣

石城で十萬六千瓦 晩秋蠶の掃立開始

片倉製糸の特約組合では 石双で五萬五千グラム

石城郡の晩秋秋蠶糸の高級の掃立は非常な意氣込みで早きものは去る二十五日頃から掃立を開始し遅きも九月四日まで掃下される模様であるが蠶量十萬六千グラムの豫想から二、三分の増加を見るものゝ如く其れにしても桑葉に不足はなからうと唱ひられ大休五萬五千貫の收購を見込まれてゐるが石双二郡に及び平町片倉製糸の特約組合では來る三十日頃からの掃立に五萬五千グラムの蠶量を豫定し一グラム六百五十貫の收購を目標として三萬六千貫の總産を見込んでゐるが一般蠶家

補助工事を 凶作対策の

高久の村道改修

石城郡高久村に於ける凶作対策補助工事は同村大字上山口から縣道に連絡するもの及び大字下高久から同じく縣道に通ずる兩村道約一キロの改修を計畫されてゐるが右の工費二千圓に對して今二十七千二百圓の補助指令を得たので近日工費の刈上げ後まで工費の見込みである

野崎氏明日總會 トップを切つて

縣議戰漸やく色めく

石城民政の別動隊とも言ふべき野崎派では明日二十八日午後一時から住吉屋本店に於て部會總會を開き役員改選の後縣議戰の對策並に擁立候補の顔ぶれを決定するが部長長漆畑元吉氏が死後候補中だつた部

貨物の量が殖えて 運賃収入では減少

益後の閑散に降雨もたつる 昨今政府米の大量到着

平澤八月の貨物動向は益益前年の繁盛な取扱ひから益後の閑散に這入つたのと降雨勝ちな天候關係で若干不振の形であつたが一日昨日來政府米の排下げが約三十車に達する大量到着を見つゝある外下旬に至つて木材及び木炭の動きを増加し今二十七日か七月末まで五日を残す豫想を加へて發着並に收入左記の如く之れを前年同期に比較せば發着に於て八百四十九トン到着では三千八百八十八トンを増加するが收入に於ては百五十圓の減少かと云はれてゐる

好問村消防 組頭交代 今日辭令交付

好問消防組頭叶多清氏は豫ねて辭任提出中であつたが二十日村後任組頭と共に左の如く發令あつたので二十七日交付した

磐炭武徳殿近 落成式

磐城炭礦武徳會分會では工費三千圓を投じて金坂グラウンドに武徳殿を建設中で今月下旬中に竣工するので十月十日頃盛大な落成式を舉行する

居所を明かさぬ從兄 人情、小林次席の斡旋で

拾年目で會える喜び

今二十七日午前九時頃平澤の區二ノ一五六に常磐美容院を經營してゐる石川キヨ(三三)さん、父庄三郎、母スイの間にタツタ一人の娘として育てられたキヨさんが十四歳の時父を棄て、母は何處かへ姿を訊して見ると娘の母を尋ねかくしたまふ今日まで行方不明な、こんな別世界の別荘住ひし乍らも、讀めても讀めなかつても兎に角、同じ眞一月も二月も囁り付いてる讀書癖は、この行者がガンヂーに似てゐると云ふよりはガンヂーに似てゐると云ふ方がこの行者に似てゐると云ひるまい。マリ、アントネツトは無二の親友ロムバアル夫人が虐殺されて、あんなに瘦せるには骨が邪魔になると云つた具合の顔は云はすも似事でさへ大嫌なので、この

別世界の記 夢之助

この老人の似顔を平界隈で捜しては當り障りがあるから遠く海外に求むるとすれば、白羽の矢を印度のガンヂーに立てなければならぬ。この上

明、キヨさんは十六の時東京に出て美容術を修得、現在では美容院を經營して個立出來るまでになつたが自分達父娘を棄てたとは言へぬ母の面影ははしさに八方尋ねた末母の實姉が平町六間門に住んで居り母の住所を知る唯一の人手機關車機關助手田島清松に問合せてもどうして知らしめてくれないので昨日來平、從兄の前記清松に會ひ頼んで見たが何んの事情があるのかどうして知らせてくれず思案に余つて願ひ出たものゝ早速田島君を呼び出して母に會ひたいと言ふのは子として當然の事なのだ、假令何の事情があつても知らせてやつてはと説いたがどうして田島君の口が堅く結局田島君の事情を訊して見ると

キヨの父叔母スイの夫であつた庄三郎は若い時から打つ買ふ飲むの三遊樂で身が以てす末を案じたセイはキヨが十四の時思ひ切つて家出の田島君の母を訪ねて身の振りを相談した上どんな事があつても一生夫の許には戻らないと堅い決心で東京に出てたもので叔母の居所が判れば道樂者の夫がまた付き纏ふ愛がありキヨに知らせれば自然庄三郎にも知れるし去四月死亡した母も妹の居所だけは知つて呉れるなと堅く言ひ遺

點本當のガンヂー以上に思想は優良である。彼氏の腹は膨らなつてゐるのか、嘗つて腹が立つた事はない。幽霊を見た事もない。マリ、アントネツトは無二の親友ロムバアル夫人が虐殺されて、あんなに瘦せるには骨が邪魔になると云つた具合の顔は云はすも似事でさへ大嫌なので、この

郷土史抄

故濟先生の遺影を偲ぶ

(瀧川家の史料採訪)

瀧川 漁史

同 秋葉 清高

同 横少 高壽

同 半谷 正隆

同 星野 重敬

同 半谷 高克

同 丸山 信政

同 彦田 正道

同 山田 正重

同 佐重 藤正

同 甘南備 正

同 中村 富幹

同 矢嶋 昌一

同 山本 昌一

同 高橋 正輝

同 藤田 正恩

同 鈴木 胤義

以上

庚午十月廿三日

泉 瀧 齋 (朱角判印文)

泉 瀧 トアリ

湯長谷 瀧

平 瀧 應

神 谷 應

御 中 (追加文)

レド略ス(勿來文庫所蔵)

原書に據ル)

以上で見ると、其の奏任格

は、先きに大義を固持して、

孤り死せる松井と同志なりし

桑原、平野、北郷乃至瀧川、

山内等を筆頭に纏羅されてお

るではないか。該の内瀧川一

正とは、濟の兄か(一分限帳で

は太仲二男濟とあるに據る)

又は叔姓の關係が不明である

然らば濟の、當時に於ける任

用は奈何、是れ甚だ興味ある

ことだ。

(五)新政地方廳に於ける

彼れの微職

維新直後に於ける地方藩の

急制官員は、中央から新たに

赴任する者と、従来の藩士より選抜した者と混じて、草創の庶政を分掌した。されば其の藩出身の官員は、勿論藩祿高に應じて上下の地位に就いたが、例外としては儒者、兵學家乃至識見の有る者は之に準じないで、比較的重席に就いた。例へば磐城平瀧直義の如きは、少祿に拘はらず、儒者、公議人、權大參事、文學大總括等の奏任持退を歸任

日本株式会社
モビル油
ガソリン
ソール油
石油株式会社
特約販賣
油問屋
關内油店
支店 支那山前通 電話長 16
支店 支那山前通 電話長 16
支店 支那山前通 電話長 16
支店 支那山前通 電話長 16
支店 支那山前通 電話長 16

洋服は 高島屋
注文並に既製品
秋物 入荷
澤山
高島屋洋服店
債券 公債 両替 金融
多田井質店
平町大町 電話五九一

清爽簡易な
サンマードレス
婦人用にお子さん用...
特價品豊富陳列
ツルヤ
平四 電一四〇

便利で 日下家政婦會の
經濟な 御利用下さいませ
身元確かで品行方正ですから
何をお任せしても安心です
日下家政婦會
會長 日下すい子
電話(呼)一八九番

石炭
コークス炭
豆炭
水野石炭店
平町郵便局通り
電話二九九番

スペインG・H・N元詰
ゴルフポートワイン
甘味葡萄酒 1・10
婦人の方には少し水を加へて
召し上ると風味一そう佳良です
(平2) 西村屋薬舗 (電3)
車手貸
平町大町若松醫院隣
半谷

耳鼻咽喉科専門
鈴木正男
平町大町電話五八番
入院應需 鈴木醫院
代表城盤
酒銘
美味經濟
ヤマハ心普油
社會名合崎山
番十話電

百萬の富より健康
此新療法で病弱を御試しなさい
「治療法」は當分一回三十錠として居りますが
家庭の事情により割引も施されます
嘘か實か百聞一見御試し下さい
治療所 日中は 城山染染園(電話一〇九)
日没後は一丁目自宅(電話四七〇)
醫師 飯田近治

朝日
水野藥局
製劑販賣元 水野藥局
磐城平町一丁目(電話六九九番)
振替口座仙台(八八七六番)

鼻の諸病に快鼻湯 有効保証
能効
蓄膿症、急性慢性鼻加答兒、鼻汁多過症
頭重、肥厚性鼻炎、その他鼻骨彎曲症、
並に中耳炎に神効の實證を受く